



Lean IT Kaizen

シラバス

Japanese Version 2.0 - February 2017



1 はじめに

- ・ コースは3日間です。
- ・ Lean IT ファンデーション資格が必須条件です。
- ・ 本コースの学習目標は、Lean ITファンデーションの学習目標を基礎として、カイゼン活動促進の責任を負うITプロフェッショナルに具体的なスキルに基づくトレーニングを提供することに重点を置いています。
- ・ 本コースでは、シックスシグマのDMAIC改善モデルを使い、完全な改善提案書を着実に作成するための基盤としてリーンのA3ツールを活用します。
- ・ 各受験者はA3作成プロセスを通して実務スキルと学習成果を適用できることを証明します。一般的なケーススタディを使うか、受講者自身の経験を使うかを選択することが可能です。
- ・ Lean IT Kaizenは、IT組織の全てのレベルまたは部門で実施されうるLean改善プロジェクトに関わる人を対象にしています。

LITA Lean IT Kaizen 試験の詳細	
問題数	40
問題の種類	多項選択 (75%)、シナリオ型多項選択 (25%)
合格点	65% (40問中26問正解)
認定研修講師の合格最低基準	75% (40問中30問正解)
試験時間	90分
参考書の持ち込み	不可

LITA Lean IT Kaizen 試験配点の比率		
IN	紹介	10%
OK	カイゼンの企画	10%
A3	A3手法	15%
DE	定義	10%
ME	測定	20%
AN	分析	10%
IM	改善	10%
CO	コントロール	15%

2 シラバス

注記: 本書第3章に参考記載あり

下の表は、Lean IT Kaizenシラバスの主要な側面をまとめたものです。

シラバス領域コード IN		シラバス領域：紹介 (IN)	主たる参照先
レベル	トピック	目標：カイゼン概念の紹介	
		カイゼンのもっとも重要な概念を知る	
		具体的特定事項:	
01		リーンにおける3つの改良：「カイゼン（継続的改善）」、「カクシン（イノベーション）」、「カイカク（急進的変更／発想の転換）」の定義についての確認と理解	1.1
01		DMAIC手法の段階についての確認	1.4
01		革新サイクルのDMEDI（定義、測定、調査、発展、実施）をDMAICと比較して理解する	1.4
01		継続的改善モデル、特にITIL継続的サービス改善とPDCAについての確認	1.3
01		毎日のカイゼンと継続的カイゼンの相違点	1.2, 2.1, 2.2
01		毎日のカイゼンと継続的カイゼンに関する考え方	1.2
		「紹介」の段で扱う以下の側面を理解する。	
		具体的特定事項:	
02	01	カイゼンの考え方の説明	1.2
02	02	カイゼンの考え方の主要要素の識別	1.2
02	03	継続的カイゼンと毎日のカイゼンの相違点の識別、両者の利点と欠点	1.2
02	04	リーンの「問題」とITサービスマネジメントの「問題」との定義の相違点について理解する	1.6およびサブパラグラフ

02	05	カイゼンを通じて排除可能な要素：ムリ、ムラ、ムダの識別	
「紹介」の段で扱う以下の側面を適用する 具体的特定事項：			
03		DMEDIではなくDMAICを使う状況の区別	1.4
03		リーンでの問題の捉え方の識別	1.2, 1.5

シラバス領域コード OK		シラバス領域:カイゼンの企画 (OK)	主たる参照先
レベル	トピック	目標：カイゼンイベントの運営と企画	
カイゼン企画の主要要素を知る 具体的特定事項：			
01	01	カイゼンイニシアティブとなるお客様の声 (VOC)、プロセスの声 (VOP)、ビジネスの声 (VOB)、各種規制の声 (VOR) について確認する	2.2.1
01	02	カイゼンチームの役割：カイゼンスポンサー、カイゼンリーダー、カイゼンチームメンバー	2.2.2
カイゼン企画に関連する以下の側面を理解する 具体的特定事項：			
02	01	カイゼンチームに適したチームメンバーの識別	2.2.2
02	02	カイゼンイニシアティブの選択方法の識別	2.2.3
02	03	カイゼンの役割がそれぞれ担当する活動の識別	2.2.2
カイゼン企画に関連する以下の側面を適用する 特に以下が可能である：			
03	01	カイゼンイベントへの支持獲得	2.2.2, 4.5
03	02	カイゼンイベントの企画と準備	2.2.3
03	03	カイゼンチームに適したチームメンバーの選択	2.2.2
03	04	カイゼンイニシアティブの選択	2.2.3

シラバス領域コード A3		シラバス領域: A3手法(A3)	主たる参照先
レベル	トピック	目標: 簡潔性の学習	
A3手法の主要要素を知る			
具体的特定事項:			
01	01	A3手法の起源と目標の確認およびA3問題解決レポートの具体的な使用法	3.1
01	02	A3問題解決レポートの主要箇所の機能の確認: 背景、現状、将来の状況目標/目的設定、分析、提案オプション、計画/改善およびフォローアップ	3.2
01	03	A3問題解決レポート、A3ステータスレポート、A3提案レポートの目的の識別	3.2, 3.3
01	04	MECE (モレなくダブリなく) 概念の理解	3.5
A3手法に関連する以下の側面を理解する			
具体的特定事項:			
02	01	要約、分析、合成の相違点の説明	3.4
02	02	情報がMECE (モレなくダブリなく) であるかどうかの識別	3.5
02	03	状況、複合および状況の主要質問の識別	3.5
02	04	A3問題解決レポート、A3ステータスレポート、A3提案レポートの相違点	3.2, 3.3
A3手法に関連する以下の側面を適用する			
特に以下が可能である:			
03	01	情報をA3形式に要約する	3.2
03	02	ピラミッド原則に従ってコミュニケーションを構成する	3.5

シラバス領域コード DE		シラバス領域: 定義(DE)	主たる参照先
レベル	トピック	目標：問題の種類／問題ステートメントの記述方法／問題の定義作成	
定義段階の主要側面を知る 具体的特定事項：			
01	01	定義段階の主要手順の確認 問題選択とオーナー識別 問題ステートメント作成とカイゼンチーム選出 問題の範囲検証 お客様の声 (VoC) 情報収集 高レベルのカイゼン計画作成	4.8
01	02	仮説および問題ステートメントの定義の確認	4.1
01	03	問題の基本的な種類の理解：単純な問題、込み入った問題、複雑な問題、カオス的な問題、無秩序 (クネビンモデル)	4.3
01	04	問題ステートメント検証に必要な視点の確認	4.2
定義段階の以下の側面を理解する 具体的特定事項：			
02	01	問題の種類 of 識別：単純な問題、込み入った問題、複雑な問題、カオス的な問題、無秩序 (クネビンモデル)	4.3
02	02	ビジネスの利益、インパクトおよび実現可能性に基づいて問題を検証する	4.4
02	03	問題ステートメントの定義と範囲指定に使用するツール (SIPOC、CTQ)	4.8

02	04	仮説と問題ステートメントの相違点の説明	4.1
定義段階の以下の側面を適用する 特に以下が可能である：			
03	01	問題定義の記述方法	4.1
03	02	A3「背景」項目の記入	4.7
03	03	カイゼン活動の主要なステークホルダーをマッピングし、ステークホルダー分析を実施する	4.5, 4.6
03	04	ITコンテキスト特有の問題識別	4.4

シラバス領域コード ME		シラバス領域: 測定(ME)	主たる参照先
レベル	トピック	目標:測定に基づいて問題ステートメントを改良する	
測定段階の主要側面を知る			
具体的特定事項:			
01	01	測定の主要手順確認 問題が発生したプロセスのアウトプットとインプットの識別 プロセスの有効なバリューストリーム・マップの作成 データ収集計画の作成と実行 測定システムの検証 プロセスの能力とパフォーマンスの評価 クイックウィン改善の識別	5.6
01	02	IT作業単位の確認: インシデント、サービス要求、問題、標準的変更、オペレーション活動、非標準的変更、アドバイス、計画	5.1.2
01	03	3種類の変数の確認: 従属変数、独立変数、コントロール変数	5.1.1
01	04	ベースラインとベンチマークの定義説明	5.3
01	05	一般的な作業単位3種類の説明: ランナー、リピーター、ストレンジャー	5.1.2
01	06	VSM測定基準 (リードタイム、タクトレート、段取り替え時間、待ち時間、仕掛、キャパシティ、スループット、VA / NNVA / NVA 時間)、計算式 (PCE、リトルの法則) の確認	5.4

測定段階の以下の側面を理解する			
特に以下が識別できる：			
02	01	定性的測定システムと定量的測定システムの相違点の識別	5.2
02	02	ベースラインとベンチマークの相違点の識別	5.3
02	03	IT作業単位と3種類の一般作業単位の関連の識別	5.1.2
02	04	定性的測定システムと定量的測定システムの種類の識別	5.2
02	05		
測定段階の以下の側面を適用する			
特に以下が可能である：			
03	01	測定基準と計算式を使ってバリューストリーム・マップを作成する（演習）	5.4
03	02	A3の「現状」項目の記入	5.5
03	03	測定システムの設定	5.2

シラバス領域コード AN		シラバス領域: 分析(AN)	主たる参照先
レベル	トピック	目標：問題の根本原因を割り出す	
分析段階の主要側面を知る 特に以下が確認できる：			
01	01	分析段階の主要手順の確認 重要な独立変数の特定 データ分析実行 プロセス分析実行 根本原因特定 根本原因の優先順位決定	6.6
01	02	QC7つ道具：ヒストグラム、パレート図、散布図、フローチャート、管理図、魚の骨図（石川ダイアグラム）、チェックシート	6.1 およびサブパラグラフ
01	03	共通原因による変動と特殊要因による変動の確認	6.1.5
01	04	時間の罫とキャパシティの制約の確認	6.3
01	05	根本原因調査のツール確認：なぜなぜ5回、C&Eマトリックス、故障モード影響解析 (FMEA)	6.2 およびサブパラグラフ
分析段階の以下の側面を理解する 特に以下が識別できる：			
02	01	QC7つ道具の各ツールの識別	

02	02	根本原因の可視化と分析 なぜなぜ五回 C&Eマトリックス 故障モード影響解析 (FMEA)	6.2 およびサブ パラグラフ
02	03	時間の罫とキャパシティの制約の相違点の識別	6.3
02	04	共通原因による変動と特殊要因による変動の相違 点の識別	6.1.5
分析段階の以下の側面を適用する 特に以下が可能である：			
03	01	共通原因による変動と特殊要因による変動への対 応方法の識別	6.1.5
03	02	本項記載の全ツールの使用	6.1 and 6.2 およびサブパ ラグラフ
03	03	A3の分析項目の記入	6.5
03	04	バリューストリーム・マップの分析	6.3
03	05	プロセスがコントロールされているかどうかの識別	6.1.5

シラバス領域コード IM		シラバス領域： カイゼン(IM)	主たる参照先
レベル	トピック	目的：改善オプションの識別	
改善段階の主要な側面を知る 特に以下が確認できる：			
01	01	改善段階の主要手順の確認 可能なソリューション創出 ソリューションの選択と優先度決定 ベストプラクティスとグッドプラクティスの適用 「将来の状況」バリューストリーム・マップの作成 ソリューションの試験導入および改善結果の確認 ソリューションの全面展開の実施計画作成	7.7
01	02	アイデア発想法の確認：ブレインストーミング、逆転の発想、SCAMPER法	7.1 およびサブパラグラフ
01	03	ソリューションの優先度決定法の確認：親和図法、ソリューションマトリックス、複数投票、ビジネスケース作成	7.2 およびサブパラグラフ
改善段階の以下の側面を理解する 特に以下が識別できる：			
02	01	ソリューションが関連する問題の種類（クネビン）に基づいたソリューションのテスト方法	7.3
02	02	アイデア発想法の識別：ブレインストーミング、逆転の発想、SCAMPER法	7.1 およびサブパラグラフ
02	03	ソリューションの選択法と優先度決定法の識別：親和図法、ソリューションマトリックス、複数投票、ビジネスケース作成	7.2 およびサブパラグラフ

02	04	ITのベストプラクティスなソリューション：ITIL、Cobit、スクラム、Prince2/PMI	7.4
02	05	ITのグッドプラクティス（原則ベース）なソリューション：Lean IT、アジャイル、DevOps	7.4
改善段階の以下の側面を適用する 特に以下が可能である：			
03	01	アイデア発想法と選択法の適用	7.1, 7.2 およびサブパラグラフ
03	02	A3項目「将来の状況／目標」「提案オプション」の記入	7.6

シラバス領域コード CO		シラバス領域: コントロール (CO)	主たる参照先
レベル	トピック	目的: 改善を確実に維持可能にする	
コントロール段階の主要な側面を知る 特に以下が確認できる:			
01	01	コントロールの定義確認	8.1
01	02	改善測定の確認 主要成功要因 (CSF) / 重要業績評価指標 (KPI) 論理的で一貫した測定 リードとラグ (遅れ) の測定 経営ダッシュボードの作成	8.2.2
01	03	コントロール計画の要素の確認: 文書化、モニタリング、対応、トレーニング	8.2
01	04	文書化の種類の確認: ポリシー、プロセス、標準作業手順 (SOP)	8.2.1
01	05	モニタリングの種類の確認: 測定基準、目で見える管理、パフォーマンス・ダイアログ、カスケード	8.2.2
01	06	改善段階の主要手順の確認 測定システムの作成 文書作成 コントロール計画の作成 ステークホルダーへの伝達 A3記述による結果提示 オーナーシップの移行	8.6
コントロール段階の以下の側面を理解する 特に以下が識別できる:			
02	01	標準作業手順 (SOP) の識別	8.2.1

02	02	リスクと価値に基づく文書化のレベル	8.2.1
02	03	学習内容（失敗および成功）の確認	8.4
02	04	他の分野での改善再現	8.4
02	05	コミュニケーション計画の要素識別	8.3
コントロール段階の以下の側面を適用する			
特に以下が可能である：			
03	01	ダッシュボードに表示された改善をコントロールする測定システムの作成	8.2.2
03	02	A3項目の「フォローアップ」記入とA3全項目の最終化	8.5
03	03	ステークホルダーに合わせたコミュニケーション計画の作成	8.3

3 Lean IT Kaizen参考資料

以下はLean IT Kaizenの学習に役立つ参考資料です。

3.1 参考資料A

Lean IT Kaizenの出版物と用語集

理解を深めたい受講者および講師向けとしては、以下を推奨します。

3.2 参考資料B

Lean Six Sigma Pocket Toolbook (chapters 1-4, 9)

Authors: Michael L. George et al

ISBN number 0-07-144119-0

Publisher: McGraw Hill, 2005

3.3 参考資料C

Understanding A3 Thinking

Author: Durward K Sobek III, Art Smalley

ISBN: 978-1-56327-360-5

Publisher: CRC Press, 2008

3.4 参考資料D

A Leader's Framework for Decision Making

Author: David Snowden, Mary Boone

Publisher: Harvard Business Review

Date: November 2007, p69-76

Copyright © 2016 Lean IT Association.

For all your inquiries, please contact info@leanitassociation.com or
visit us at www.leanitassociation.com